

富士フイルムホールディングス株式会社  
2022年3月期 第2四半期決算説明会  
主な質疑応答

Q: 2Qの業績について、計画に対しての進捗を教えてください。

A: 全体では、売上・営業利益共に計画を過達した。

売上では、ヘルスケアは計画を過達。国内の新型コロナ関連補正予算による、回診車や携帯型超音波装置の需要が想定以上に増加したメディカルシステムに加え、培地が好調なライフサイエンスが寄与した。マテリアルズ、イメージングも計画を過達。マテリアルズでは、電子材料が半導体需要増を背景として幅広い製品群で売上が好調に推移し、ディスプレイ材料もコロナ関連の特需が継続した。ビジネスイノベーションは、日本やアジアパシフィックでのコロナ再流行と、半導体需給逼迫による一時的な機器出荷・設置の遅れが出たため、計画未達となった。営業利益では、ビジネスイノベーションが部品等の価格高騰により計画未達であったが、全体では増収による増益が寄与し、計画を過達した。

Q: メディカルシステム事業における、連結子会社化した富士フイルムヘルスケアの貢献を教えてください。

A: 富士フイルムヘルスケアが加わり、富士フイルムとのコラボレーションが順調に行われている。製造部門では、コストダウンを連携して行ったり、開発プラットフォームを一本化するなど競争力を高めている。販売では、北米の海外販社を統合し、双方の販路を使用して販売・設置・メンテナンスを行うなど世界的に強力な販売網が出来上がりつつある。

Q: バイオ CDMO の今期計画に対しての進捗を教えてください。

A: 上期実績は為替影響により計画に対して若干上振れしているが、2021年度売上高は当初計画から変わりはなく1,400億円を着地すると見ている。

以上